

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和 5 年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	佐賀市立春日北小学校	C: やや不十分である D: 不十分である
1 前年度 評価結果の概要	一人一人を大切にした教育の充実に関しては、心と体のアンケートの毎月実施、「心の花」や「いじめ0宣言」、人権集会（リモート）、金立特別支援学校や幼保との間接交流等を通して、自他を大切にする心の成長が見られた。今後も、全職員による情報共有を基盤に、組織的な対応力強化に努める。 ・学力向上に関しては、校内研究（算数科）や計算ドリル2回反復等、検定テスト、「北っ子ががんばろう週間」による学習習慣の定着へ取り組んだ。今後も、基礎・基本の定着を基盤に、児童が主体的に学習し、考えを深める言語活動の充実を目指し、教師の指導力向上に資する研修を深めていく。 ・健やかな身体を育む教育の推進では、栄養教諭と担任とのTTの食育の授業を全クラス計画的に実施できた。次年度も継続していく必要がある。 ・開かれた学校づくりの推進では、地域と共催できる行事が少しずつできるようになってきた。夏まつり等、まちづくり協議会との連携の充実を図り、さらに地域と一体となった学校運営を目指す。学校便りの発行やホームページの更新は定期的に行うことができた。 ・業務改善・教職員の働き方改革の推進に関しては、目標に対して実効性のある具体的な方策を提案し、ほぼ実現できた。今後も行事の精選をしながら、目標をさらに具体化し、職員の意識を高め、主体的に関わる取り組みが必要である。	
2 学校教育目標	夢をもち、仲間とともに学ぶ 元気な子どもの育成 ～思いやる 考える きたえる～	
3 本年度の重点目標	① 一人一人を大切にした教育の充実 ② 学力の向上 ③ 健やかな身体を育む教育の推進 ④ 開かれた学校づくりの推進	

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				
(1)共通評価項目							主な担当者	
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
●学力の向上	○算数科を中心とした学習指導法の工夫と改善	○6月の算数アンケートで「算数の学習が好き、算数の学習が分かる」と答える児童が80%以上、12月の算数アンケートで「算数楽しい、算数の学習が分かる」と答える児童が85%以上	・各教科で「授業づくりのステップ1・2・3」や本校の校内研究「自分の考えを説明・表現できる児童の育成」を踏まえ、授業を行う。	A	・2学期は各学年研究授業を行った。12月に取り組んだ2回目の算数アンケートでは、「算数の学習が楽しい」と答えた児童の割合82%、「算数の学習が分かる」と答えた児童の割合90%であった。6月に比べ、どちらの項目も数値が上がっていた。	A	・算数科の学習については「基礎の反復」が重要と思われるので、校内研究等により適切な指導が実施されていると思う。 ・好きこそものの上手なれ！「楽しい」「分かる」といった児童の情意面に着目した評価は意義深いと思う。可能であれば実際の学力との相関も検証して欲しいと感じた。 ・算数楽しい・分かるという児童が増えるということは、先生方の頑張りがすごいと思う。 ・今後も持続して頑張って頂きたい。	学びづくり部
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校評価アンケートで「学校には、いっしょに遊んだり話したりできる友達がいる。」と回答した児童が90%以上	・「心の木」の取り組みを継続し、温かい言葉や行為を放送で全校に紹介する。 ・児童の心の不安に気づき、早期対応のため、月1回心と体のアンケートを実施する。 ・異学年交流を図る縦割り班活動や金立特別支援学校・ロザリオ幼稚園等との交流学習を実施する。	A	・第2回学校評価アンケートで「学校には一緒に遊んだり話したりできる友達がいる」と回答した児童が96%だった。 ・幼保小交流の不安に気づき、縦割り班活動を計画的に実施し、異学年交流ができた。 ・「心の木」でテーマに沿った児童の思いを全校に紹介したり、公民館に掲示したりすることができた。	A	・「心の木」活動やアンケートの実施により、対人関係の把握が適切に行われていると思う。 ・道徳教育の充実が中核と思うが、「心の木」の取組など感心させられる。この「心の木」に対する児童の反応はどうでしょう。 ・報告の内容から子ども達の心は現時点では人を感じる気持ちで日常生活を送っているかと推察するので、今後も継続をお願いする。	心づくり部
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「組織運営に関するアンケート」で「いじめ防止等(いじめの定義、防止などのための取組、事案対処等)について組織的対応ができています」と回答した教職員80%以上	・いじめの早期発見のための月1回の「心のアンケート」を行う。 ・自他を尊重して行動する児童の育成をめざした集会を学期に1回行う。	A	・「組織運営に関するアンケート」で「いじめ防止等について組織的対応ができています」と回答した教職員は97%であった。 ・「心のアンケート」を毎月1回実施し、気持ちよく過ごすことができているか、子ども達の思いを聞き取り、問題共有し共に解決へ向けて努力している。 ・人権集会を全校で実施(12月)、「子どもの権利」について学習する機会を設けた。「人権通信」を発行(10月、12月)、児童および保護者への啓発を行った。	A	・いじめの早期発見・早期対応に努力されていると思う。当事者への対応等(保護者含)が先生方の大きな負担となり教員不足の原因になっていると思う。問題解決に向け行政等の積極的関与により先生任せではない ・しっかり取り組まれていることに感心する。保護者の方との連携がとても大切だと思う。PTAと連携し保護者とともに学ぶ機会が大切ですね。 ・アンケートの結果より、良い報告を受けて安心したが、子どもは何時誤った行動により、いじめであるとの認識等の把握が難しいので、今後も継続をお願いする。	児童生徒支援
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていてと思う」と回答した児童生徒80%以上 ◎◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・ほめて伸ばす教育の実践(声掛け、ワークシート等へのコメント記入)。 ・中学生から中学校生活についての説明を聞いた、ゲストティーチャーを招いたり、校外学習を行ったりし、将来への夢をもつ機会を作る。	A	・児童アンケートの「先生によいところをほめられたり認められたりしていますか」で肯定的な回答が82%。担任はもちろん、学校行事や清掃指導等で、担任以外の教師からもほめられる経験を増やすことができた。 ・「将来の夢や目標をもっていますか」で肯定的な回答が85%。中学生から中学校生活についての話を聞いた、積極的にゲストティーチャーを招いて学習をしたりすることで、将来について考える機会を作ることができた。	A	・「将来の夢」「なりたい職業」に移行することが望ましいが、そうならなかった時の「自己対応」や突破していく「生きる力」の育成が望まれる。 ・「ゲストティーチャー」の成功談や失敗談を聞くことは、大変貴重だと思う。 ・将来の夢を持つことは大切なことだが、どのようにしたら持てるのか持たせることができるのか、そのための教育活動は何か、それを突き詰めて手立てとしてさらに有意義な教育になると思う。褒めて伸ばすことは大切なことだと思う。褒める上で、気を付けるところ、配慮していることがあれば教えて欲しい。 ・アンケートから先生方の努力等により子ども達が学校に行くと方向性が見えるので、今後も頑張ってください。 ・褒めて伸ばす」とても良い教育ですね。これから継続してください。	教務主任
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○学校評価アンケートで「早寝・早起き・朝ごはん」に取り組んでいる」と回答した児童90%以上	・望ましい生活習慣を形成していくため、月1回心と体のアンケートを実施する。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」実施週間を設定し、定期的な評価を指導に生かす。 ・栄養教諭と担任とのT.Tの食育の授業を全クラスで年間1回は行う。	A	・「早寝・早起き・朝ごはん」実施週間を設定して、結果を考察し、指導に生かした結果、アンケートで肯定的に回答した児童は91%と前回より3%上昇した。 ・栄養教諭と連携し、調理実習や食育の授業を行うことで児童の食に対する関心が高まった。 ・今後も、規則正しい生活習慣を身に付けるために、具体的に取り組む週間を定期的に設定したり、家庭への啓発を行ったりしていきたい。	A	・若年層における「生活習慣」の乱れからの病気の発症も少なくなく、規則正しい生活は健全な肉体、精神の育成に直結すると思うので、大変よく指導されていると思う。 ・保護者を巻き込んだ生活習慣づくりは有意義だと思う。PTAの取組を知りたい。 ・報告より児童の日常生活の努力等が見える努力がされており、食育の授業に努力された結果なので、今後も持続して頂きたい。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」とても大切で今後もしっかり取り組んで欲しいと思う。	体づくり部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する(昨年度同月より減) ○県費職員の年休12日以上取得、年末までに8割以上達成	・定時退勤日を設定する。 ・毎日退勤時にパソコン入力をすることで退勤時間の意識化を図る。 ・iSchoolの校内連絡掲示板の活用を促進し会議の効率化を図る。 ・会議資料等のデータ化を更に図る。	A	・9月以降、1ヶ月あたりの時間外在校等時間が45時間未満の職員の割合が84%であり、大幅な伸びが見られた。職員の意識も高まっており、来年度も更なる業務改善を行っていく。 ・年末までの県費職員の年休12日以上取得者は28人であり、目標を達成することができた。	A	・幼児教育とともに「働き方改革」の推進が実施しにくい職業であり非常に難しいと思うが、保護者対応等時間外勤務の削減に行政を巻き込んで対応して欲しい。 ・評価指標の数値からは良い結果に繋がっているようだ。先生方の実感が伴っていればなお良いと思う。 ・改革には職員の意識改革が必要だと思うし、外部の力も必要だと思う。とりわけ経営コンサルタントによる研修など。また保護者の理解も欠かせないですね。 ・評価についてはA評価にさせて頂いたが、現実には難しい課題だと思う。実際に朝早くに出動されている先生方の事を確認しているので、今後も検討出来る範囲で努力して頂きたい。 ・更なる業務改善をきて、先生方が少しでも楽になれることを願う。	教 頭
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							主な担当者	
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
○個に応じた教育	○教育相談・特別支援教育による支援の組織化 ○不登校の解消	○特別支援教育に関する専門性が向上した教員が7割以上 ○個別の指導計画の目標達成7割以上 ○完全不登校の児童をなくす	○月に1回程度、配慮を要する児童について情報交換をする場を設定し、共通理解に努める。 ○必要に応じてケース会議を開いて対応や支援について検討し、チームで取り組んでいく。 ○学期ごとに、個別の支援計画の目標を振り返り、評価と見直しを行う。 ○別室登校児童や不登校児童の状況について、日常的に情報共有をする。	B	・生徒指導教育相談協議会(10、11、2月)で、児童の現状や対応について共通理解をした。 ・毎週、学校生活支援員と特別支援学級支援員の記録を回覧し、情報を共有して支援に生かした。又、毎週、時間割や学級の实態に応じて支援員の配置時間割を作成した。 ・必要に応じ、SCやSSW、巡回相談等を活用した。 ・不登校児童については、担任が保護者と連絡を取り合い、管理職等に報告して対応策(家まで迎えに行く等)を検討した。また、別室対応支援員や、教育センター、くすの実等と連携した。	A	・児童の多様性が問題となっている時代に、なり手不足等による人員不足の中、大変苦勞し努力されていると思う。人員の配置等、行政、政治の関与が重要と思われる。 ・よく努力されていると思う。成果を検証する指標は難しいですね。支援を要する児童の増加により先生方の負担が心配である。 ・不登校児童の課題に対しての先生方の取組による努力には本当に感じているが、児童が不登校となった時点での家族側による対応等をお聞きしたい。	主幹教諭
○開かれた学校づくりの推進	○保護者や地域住民との情報の共有化 ○保護者や地域との連携強化	○学校評価アンケート「学校は、学級・学年だより、連絡帳や電話などで、子どもの様子がわかるように伝えている」と回答した保護者9割以上 ○学校評価アンケート「PTA活動や地域行事には進んで参加・協力している」と回答した保護者8割以上	○保護者や地域住民に対して、学校だよりや学年・学級だより、学校ホームページ等で積極的に情報を発信し、連携を強める。 ○学校行事等への参加・協力を依頼する。	A	・毎月1回以上、お便りやHPで学校の情報を発信した。また、回覧板で地域住民へ「運動会」「きたきた祭り」の案内をした。アンケートでは85%の保護者が「学校は子どもの様子が分かるように伝えている」と回答した。今後も定期的に情報を提供し続けることが大切である。 ・PTAが協力し、運動会、北っこフェスタ等の学校行事を計画的に実施し、当日は地域の方々にも参加いただいた。アンケートでは、94%の保護者が「授業参観、懇談会、学校行事には可能な限り参加している」と回答した。	A	・有名人による「PTA」任意参加発言がされる中、本校におかれては「きたきた祭り」等、盛んに活動されていると思う。今後も自治会、まち協、民児協と連携し活動して頂きたい。 ・学校はよく努力し情報を発信していると思う。 ・現在の保護者会、各自治会、各地域活動の団体が春日北小のために協力されていることは良いことなので、小学校の行事等の情報共有をこれからも続けてください。地域による安全確保にもなるので、大いに推進して頂きたい。 ・お便りにより学校の様子がよく分かり、今後も続けて頂きたいと思う。	主幹教諭
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育								
5 総合評価・次年度への展望	学校評議員会において学校の現状や今年度の取組について説明したところ、すべての委員から肯定的な意見をいただき、8項目のうち全ての項目においてA評価「十分達成できている」をいただいた。全職員が共通理解・共通実践のもと組織として取り組んできた成果だと考える。次年度に向けて、以下の点を改善していきたい。 ・一人一人大切にしたい教育の充実のために、「心と体のアンケート」、「心の木」の取組、「いじめ宣言」、「人権集会」等、今後も全職員による情報共有を基盤として継続し、自他を大切にする心の醸成を図っていく。 ・学力向上に向けて、次年度も基礎・基本の定着を基盤に、児童が主体的に学習し、考えを深める言語活動の充実を目指し、教師の指導力向上に資する研修を深めていく。 ・多様な子ども達が安心して学べる学級づくりに向けて、まずは「学習のきまり」を年度当初共通理解をし全職員で意識しながら徹底を図り、より充実した学級経営を行っている環境を整えていく。 ・今後も行事等の見直し及び精選をさらに具体化させることで、教師の意識を高め、業務改善・教職員の働き方改革を更に推進していく。							